

後援会会員

2008社(平成30年11月20日現在)五十音順

(株)アートエッジ	技研(株)	大和証券(株)山形支店	東北バイオニア(株)	(株)本間利雄設計事務所	(有)山形商美社
あいおいニッセイ同和損害保険(株)	(株)梓屋本店	ダイワボウ情報システム(株)	トイエ工業(株)	(株)丸九十大屋	山形食品(株)
税理士法人あさひ会計	(株)きらやか銀行	山形支店	(株)富岡本店	(株)マルゼン山形営業所	(株)山形新聞社
(株)朝日測量設計事務所	(株)きんでん東北支社	(株)高橋型精	(株)とみひろ	丸善雄松堂(株)仙台支店	山形信用金庫
東の麓酒造(有)	(株)クリエィティヴスタッフ	高橋畜産食肉(株)	(株)トヨタレンタリース山形	(株)丸九俊	山形ゼロックス(株)
(株)荒正	黒澤建設工業(株)	(株)高橋フルーツランド	内外緑化(株)	マイクロン精密(株)	(有)山形第一不動産
(株)市村工務店	(株)建築テック	(株)タカハタ電子	(株)ナウエル	みずほ銀行山形支店	(株)山形テレビ
(株)井筒屋伊兵衛	弘栄設備工業(株)	(株)小松写真印刷	(株)永井設計	(株)南東北クボタ	山形トヨタ自動車(株)
(株)IBUKI	(株)小松写真印刷	(株)滝の湯ホテル	(有)長門屋	マイク美創(株)	山形パナソニック(株)
羽陽建設(株)	(株)蔵王サプライズ	(株)竹原屋本店	ナブコシステム(株)山形支店	(有)名月荘	(株)メフオス
うるしやまタクシー(株)	(株)蔵王ミート	(株)多田農園	西東北日野自動車(株)	北東北事業部山形支店	(株)モス山形
(株)エイアンドシー	酒井造園	(株)田中工務店	(株)にしむら	(株)モンテディオ山形	山形放送(株)
SMB C日興証券(株)山形支店	(株)栄屋ホテル	(株)サニックス	(株)ニューテックシンセイ	(株)ヤガイ	山形陸運(株)
(株)エスパック	(株)エフエム山形	(株)JES設計	沼澤歯科医院	(有)矢口	山形ワシントンホテル(株)
(株)エル・サン	(株)エルティリゾートやまがた	(株)JTB東北法人営業山形支店	ネットワーク山形(株)	(有)八代交通(株)	(株)ヤマコー
遠藤商事(株)	(株)オーイン	(株)志鎌園	ネットワークの里	山形形アドベニール	(株)ヤマザワ
(株)オーイン	(株)大風印刷	医療法人社団松本会	野川商事(株)	山形いすゞ自動車(株)	(株)ヤマザワ
(株)大久保硝子店	(株)大久保硝子店	至誠堂総合病院	(株)佐藤松兵衛商店	農事組合法人	山形新観光(株)
太田産商(株)	(株)大沼	(株)シンペール	野口鋳油(株)	山形おきたま産直センター	(株)山新観光(株)
オオホリ建設(株)	(株)オオホリ建設(株)	(株)ジョインセレモニ	(株)ハイスタッフ	山形ガス(株)	(株)山田鶏卵
(株)オカムラ	(株)小川製麺	(株)庄内銀行	(株)ハイテックシステム	山形銀行	(株)山本組
(株)小川製麺	小野建設(株)	(株)尚美堂	(株)羽田設計事務所	山形空港ビル(株)	悠湯の郷ゆさ
小野建設(株)	オビサン(株)	進和ラベル印刷(株)	(株)八文字屋	(株)山形ランドホテル	(有)よしだ
オリエンタルカーペット(株)	(有)鏡堂店	(株)鈴木製作所	東日本電信電話(株)山形支店	(株)山形観光物産会館	(株)吉田段ボール
(株)オスカワスポーツ	月山観光開発(株)	医療法人社団須田医院	(株)ファイン	(株)山形県自動車販売店	恵壁画廊
(株)加藤物産	(株)金入	(株)須藤電機	フリースト興産(株)	(株)山形県自動車販売店	(株)蘭企画
(株)上山温泉ホテルあづま屋	(株)鏡堂店	医療法人社団清水会	富士ゼロックス(株)	山形建設(株)	リコージャパン(株)
	(株)カスカワスポーツ	セコム(株)山形統轄支社	富士ゼロックス宮城(株)	公益社団法人	東北営業本部山形支社
	全国農業協同組合連合会	(株)セロン東北	富士ゼロックス宮城(株)	山形県宅地建物取引業協会	両羽協和(株)
	山形県本部	東武トップツアーズ(株)山形支店	フジテック(株)東北支店	山形県民共済生活協同組合	菱機工業(株)仙台支店
	(株)そめこや本店	(有)東北環境総合サービス	布施弥七京染店	公益社団法人山形交響楽協会	リンベル(株)
	(株)大商金山牧場	東北電力(株)	平成タクシー(株)	(株)カキヤキ 山形国際ホテル	(有)レンタルプラザ
	(株)ダイバーシティメディア	東北電力(株)	(株)ベガス	山形酸素(株)	和田酒造合資会社
		東北電力(株)	(株)保志	山形市農業協同組合	渡辺包装(株)
		東北電力(株)	(株)保志		

おむすび 2018年12月1日発行 発行:東北芸術工科大学後援会 〒990-8580 山形市上藤田3-4-5 TEL:023-627-2000 WEB: http://kouenkaifuad.ac.jp/ Mail: kouenkaif@aga.tuad.ac.jp 印刷:田宮印刷株式会社

「地域の企業」と「芸工大」をむすぶ



地域をおもしろくする卒業生 絵描き 吉田真理

おむすび

六

今日からできる温暖化対策
山形に秘められた自然エネルギーの可能性

今日からできる

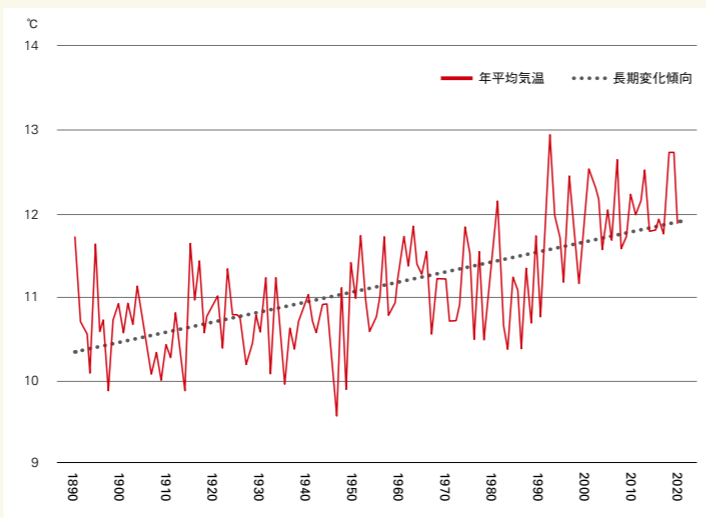
温暖化対策

山形に秘められた

自然エネルギーの可能性



蔵王連峰の特殊な気象条件と木々が作り出す「樹氷」は、世界的にも珍しい雪の芸術です



山形市における年平均気温の推移

樹氷もサクランボもない山形。そんな風景が、遠くない未来に迫ってきています。2018年は記録的な暑さで、局地的な大雨の被害も目立ち、このまま地球温暖化が進めば、山形の基幹産業である農業、観光業、さらには日常生活にも影響が及ぶことは間違いありません。山形で営み、暮らす私たちが取り組める温暖化対策とは？

ローカルライフを楽しみながら、自然エネルギーと付き合っていく方法は？

山形在住のローカルエネルギー研究者で、東北芸術工科大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科の三浦秀一教授にお話をうかがいました。

迫り来る環境の変化。

現場の声を発信してほしい

今年の夏は異常なほど暑かったですね。山形県各地では7月の月間平均気温の記録が更新されました。この環境の変化を一番直に感じたのは、農家の方ではないでしょうか。100年後には最高気温が45度を超えるというシミュレーションもあり、いずれは山形で柑橘系がつかれるようになるとも言われています。さくらんぼ栽培においては、適応策として品種改良をする必要が出てくるでしょう。山形の一部のさくらんぼ農家には、すでに北海道にさくらんぼ畑を持っている方もいるくらいですから、すでに変化は起き始めているのです。

樹氷も絶滅の危機に瀕しています。気温が約3℃上昇すると樹氷ができる一番低い場所の標高が150mを上昇し、樹氷はすべて消滅すると言われています。これは蔵王のスキー場や温泉宿といった観光業にとっては死活問題です。

こうした環境の変化はもっと広く知られるべきであり、農業や観光業に関わる方々は現場で日々感じていることを、その現場の声として、積極的に発信してほしいと思っています。立派なウェブサイトがなくてもいい。SNS

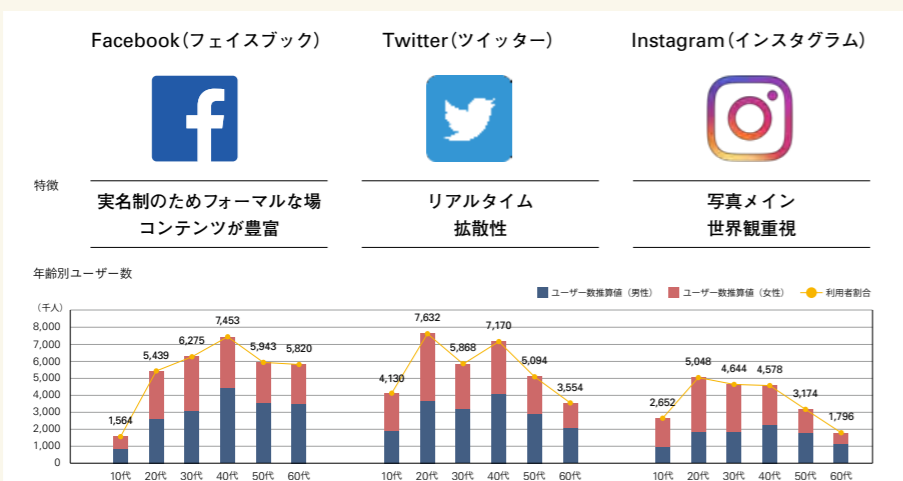


東北芸術工科大学 デザイン工学部
建築・環境デザイン学科 教授

三浦秀一

兵庫県生まれ、ローカルエネルギー研究者。やまがた自然エネルギーネットワーク代表。住まいとまちの環境計画が専門。地球温暖化などの環境問題から、人—住まい—まち—地球の繋がりを見つけ直し、新しい住まいやまちの未来を提案している。

やブログからで十分です。オフィスワーカーや普通に生活する一般の人にとっては、暑さは我慢すれば過ぎていき、経済に関わってこない限り危機感には生まれません。しかし、農業や観光業の方にとっては生業に関わってきます。そんな現場からの真剣なメッセージは、強い影響力を持つと思うのです。



SNSの使い分け：SNSはSocial Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略で、インターネットを介して社会的な繋がりを提供するサービスです。ここでは、代表的な3つのSNSをご紹介します
参考：Social Media Lab「2018年3月版 主要 SNS ユーザー数データまとめ」



写真上)自然エネルギーによる地域再生の映画

写真右) 東根市の秋葉慶次さんの田んぼソーラーシェアリング

エネルギー兼業農家と、 そこから生まれる好循環

農業者がメッセージを発信する際は、温暖化防止に取り組む前向きな姿勢をアピールすることも効果的だと思います。いまは農家が自分の田んぼや畑で電気をつくることができる時代です。田んぼの上にソーラーパネルを設置し、太陽光発電をすることを「ソーラーシェアリング」といいます。太陽のエネルギーを、米の栽培にも発電にもシェアして使うシステムです。

例えば1000㎡ほどの土地があれば、約50kWほどのソーラーパネルが設置でき、1年間で90万円(2018年度の単価・18円/1kWの場合)の売り上げが20年間確実に続くこととなります。ちなみに、パネルの影は太陽の動きと連動しているため、ムラなく日光が届き、お米の品質に影響はありません。こうして発電と兼業する農家は「エネルギー兼業農家」と呼ばれています。ヨーロッパではこのエネルギー兼業農家の動きが盛んに見られます。

そのようなエネルギー兼業農家の動きに、地域の企業が事業として関わることができます。特に発電設備をつくることのできる建設業は自然エネルギーと関わりが深い業界とい

えるでしょう。太陽光パネルを設置する台を回転式にして、雪を落ちやすくするといった工夫や開発を、農家と地元の建設会社が一緒になって取り組むことができます。

食品加工の会社も連動できることがたくさんあります。山形の日本酒が「GI山形(※)」として地域ブランドに認定されました。これからは山形の水と米、そして山形の自然エネルギーを使ってお酒をつくるっていいのはいかがでしょうか。電気はお酒の味には直接影響しません。いい環境があつてこそおいしい水とお米ができるわけですから。それを守っていくためにも環境にやさしいエネルギーをつくり、酒造りにも使っていく。こうした循環をつくってほしいです。

消費者がこの循環に参加することも可能です。お酒が好きな人がソーラーへ出資して、そこに電気が生まれ、酒蔵はその電気を使ってお酒をつくり、出資者にはリターンとして出資分より少し上乗せした相当のお酒を送る。お酒が好きな人にとつても酒蔵にとつても、ワインウインの関係性です。お米農家の場合も同じで、エネルギー兼業農家に出資して、出資分プラスαのお米をお返ししてもらおう。お客さんにとつては、出した金額以上のおいしいお米が返ってくる。ウェブサイトを使い、ふるさと納税と同じ仕組みが活用できるのではないのでしょうか。



省エネで長寿命なためランニングコストがかからず、初期投資以上の効果が見込めます



大掛かりな煙突工事がなく、FF式のファンヒーターのように設置できます

自然エネルギーに関わる方法は他にもあります。私自身も「やまがた自然エネルギーネットワーク」として参画している東根市の「さくらんぼ市民共同発電所」は、市民が事業費の一部を運営会社に出資する、市民共同出資型の太陽光発電所です。芸工大卒業生の渡辺智史監督がつくられたドキュメンタリー映画『おだやかな革命』でもいくつか事例が紹介されていますが、地域で新しい発電システムをつくり、電力会社を経営して、自然エネルギーを売ったり使ったりする動きが全国各地で少しずつ起こっています。

「温暖化対策」というと対策の重要性に対して否定的な意見もありますが、広大な土地と自然がある地方は自然エネルギーの宝庫であり、新たな可能性に満ちています。GI山形も素晴らしいことで、日本酒だけでなくワインにも応用していきけるはず。山形は農業県であり観光立県ですから、自然エネルギーに前向きに取り組んでいく姿勢は、山形のアイデンティティとしても大切なことなのではないでしょうか。

今日からできる省エネいろいろ

温暖化対策として、個人がすぐに着手できる省エネ法もたくさんあります。一番簡単なのは、照明をLEDに変えること。家、事務所、

商店街など、古い電球を使っているところはまだまだたくさんあります。買い替えにはコストがかかりますが、必ず元はとれます。電球以外でも、古い暖房器具、電化製品の買い替えも省エネにつながります。例えば、大きな事業所や商店街に「省エネアドバイザー」のような人が来て、初期投資と今後の電気代を試算して、提案してくれるといいですね。それを商店街単位、もしくは企業単位で取り組むことは、エネルギーの節約としてはかなり大きなポテンシャルを秘めていると思います。

自宅で暖房器具を買い換えるとしたら、薪ストーブやペレットストーブもおすすめです。薪ストーブは多少の手間とスペースの問題がありますが、災害時や停電が起きた場合にも役立ちます。燃料にはどちらも木、つまり植物由来のものを資源とするバイオマスエネルギーを使います。そしてなにより、エアコンや石油ストーブにはない、炎ならではの快適な暖かさがあります。燃料コストはエアコンや石油ストーブとだいたい同じくらい、もしくはペレットストーブのほうが若干安い傾向にあります。

(※) GI 山形は2016年12月16日に国税庁より認定された山形産の日本酒を保護する地理的表示制度。ワインの世界でいうボルドーのように地域ブランドを保護する制度で、県単位の日本酒の地理的表示では山形が唯一指定されている。



断熱材と気密をしっかりすることで省エネに



断熱性に優れた3枚ガラスを組み込む窓



屋根には、太陽光発電、太陽熱温水器、雨水利用などのシステムが取り付けられています

夏も冬も快適に。 家づくりを見直してみよう

住環境についても考えてみましょう。雪国である山形は、これまで防寒に注力してきましたが、これからは猛暑対策も同じくらい重要になってきます。実際に今年は山形で熱中症の搬送者が昨年より倍増しており、今までの家づくりを根本から見直さなければいけない局面にきています。

問題は山形の内陸部では風が吹かないことです。昼間の外気温が高いうえに、夜に気温が下がっても空気の入れ替えができず、室温が1日中下がらないわけです。

そこで冬と同じように、高断熱・高气密のエコハウスが夏にも効果を発揮してきます。冬は暖かいし、夏も涼しく過ごせる。エコハウスではエアコンが効きやすいため省エネでもあります。今年の猛暑によって、冬も夏も基本的には同じ考え方で断熱を進めていけるという確認ができたわけです。

冒頭の情報発信の話に戻りますが、エコハウスに関する情報は、積極的に工務店から声をあげていってもらいたいと思います。いまはネットがありますから、家を建てたい一般の方は施工技術について熱心に調べて勉強しています。なんせ人生最大の買い物ですから、

みなさん真剣です。情報発信を続けていけば、必ずお客さんに届きますし、情報発信できる工務店とできない工務店とは大きく差が開いていきます。そして技術の話だけではなく、社長の考えに共感できるかどうかも重要になってきます。社長が環境や地域について情報発信できるかもひとつのポイントになるかもしれません。

芸工大の近くにある「山形エコハウス」をご存知でしょうか？あそこはエネルギーについて考える上でいきつかけとなる場所です。ハウスメーカーのモデルハウスのように後からの営業がすごいのでは…と心配する方もいるかもしれませんが、山形県の公共施設なので心配ご無用です。予約なしで見学できるので、エコハウスやエネルギーについて、いつでも気軽に相談にきてください。

▼山形エコハウスは一般の方の見学も可能です。詳細はHPをご覧ください。(https://www.tuad.ac.jp/ecohouse/)
▼ウェブメディア『リアルローカル山形』(https://reallocal.jp/yamagata)で、連載コラム「楽しい暮らしのエネルギー」を担当しているほか、「やまがた自然エネルギー学校」という講演会やセミナーも実施しているので、自然エネルギーに関心のある方はぜひご参加いただければと思います。(http://yamaene.net/)

PICK UP 地域をおもしろくする 卒業生の仕事図鑑

グラフィックデザイン 〈食〉編

芸工大ができて27年。卒業生は1万人を超え、近年まちのいたるところで卒業生の仕事を目にするのが多くなってきました。ここでは、クリエイティブによって他との差別化や、付加価値を生み出す卒業生たちの仕事をご紹介します。

「サヴァ缶」デザイン
岩手県産株式会社(岩手)



アカオニ 主宰
小板橋基希さん

ヨーグルト酒「ヨー子」イラストレーション
榎の川酒造株式会社(山形)



杉の下意匠室
小関司さん



「やおやの漬物」デザイン
榎屋商店(山形)

デザイン事務所 ペイジ 代表
土澤潮さん



「PIZZERIA La gita」デザイン
PIZZERIA La gita(宮城)

UMEKI DESIGN STUDIO 代表
梅木駿佑さん



瓶詰めソース「やまがたしぐさ」
芸工大と共同開発(デザイン)
後藤屋(山形)

アイスクリームデザイン
本間拓真さん



「だるまりんご」
芸工大と共同開発(デザイン)
山形県中山町

コロン 代表
萩原尚季さん



特集2

地域をおもしろくする卒業生

旧校舎を拠点に生み出される、 地域とアートの未来に向けた融合

吉田 真理さん

(2014年度美術科洋画コース卒業)

雄大な飯豊連峰と豊かな田園風景が広がる山形県小国町小玉川地区。美術科洋画コース出身の吉田真理さんがこの地に移住したのは、2016年のこと。きっかけは、東京で会社員をしていた時、たまたま母校である芸工大の公式フェイスブックで見つけた、旧小玉川中学校の校舎利活用事業〈studioこぐま〉の人員募集記事でした。それから2年経った現在、吉田さんは〈studioこぐま〉の代表として、あらゆる年代の人がアートに親しめるための講座やプログラムを日々企画、実施しています。

さらにイラストレーターとしても活躍の場を広げている吉田さん。2017年からは洋画コースの同期・高橋真菜さんとアトニット「マナトマリ」を結成。立体とドローイング作品を組み合わせて空間を作るインスタレーションを展開しています。そんな吉田さんの活動から見えてきたのは、地域をフィールドにした、アーティストの新しい働き方の形でした。

8

東京での会社員生活を経て 選択した山形への移住

大学を卒業後、私は東京の寝具会社に就職しました。埼玉の実家から東京へ通い、配属された商品部で発注や仕入れの仕事を担当する毎日。やりがいを感じてはいましたが、どうしても、毎朝同じ時間に満員電車で揺られて東京へ行くという都会での働き方に馴染むことができませんでした。「もし会社を辞めたとしたら、次はどうしよう…」、そう思いながら何となく開いた芸工大の公式フェイスブック。そこで目にしたのは、小国町にある旧校舎を活用してアートに親しむためのイベントやワークショップを企画・実施する〈studioこぐま〉の人員募集記事でした。いくつか絵を描くことを仕事にできたら、そして大学時代を過ごした山形でその仕事ができたら。以前からそう考えていた私はすぐに〈studioこぐま〉に連絡を取り、あえて冬の寒さが一番厳しい2月に小国を訪れることにしました。

現地に着いて何より驚いたのが、道路がすごくきれいに除雪されていたこと。車の運転やこの町で暮らすことへの不安が一気に払拭された私は、2016年6月から〈studioこぐま〉の一員になりました。



山の彩り迫るこの場所が吉田さんの活動拠点。画家として絵を描く際、動植物がテーマになることが多いのは小国町の景色に影響を受けてのこと

ぐま〉の一員になりました。当時代表を務めていたのは、同じく芸工大出身の大沼洋美さん。ともに、子どもたちをアトリエと呼んで自由に絵を描いてもらったり、地域の方を対象に色鉛筆講座を開いたり、いろんな年齢層の方がアートに親しめる企画を実施してきました。その後、2017年3月に大沼さんが退任され、現在は私一人で活動を続けます。

「小国短期留学」がもたらす 互いに学び合える環境

〈studioこぐま〉が行っている企画のひとつに、芸工大の在校生と卒業生を対象にした小国町でのレジデンス(滞在)制作があります。以前は1ヶ月の滞在期間を設けていましたが、短期間でより強く地域に関わることができ、さらに、記憶に鮮明に残るような学びを体験してほしいという思いから、現在は7月と8月、あわせて1週間程度の滞在プログラムを実施しています。まず7月の目的は、小国に根付く知恵や技を学び取ること。マタギの方々に山を案内してもらったり、地元のお母さんたちから郷土料理の作り方を教えてもらったり、小国の自然と共存しながら生計

9

を立てている移住者の方々に「小国で暮らす」とはどういうことかを、体験を交えながら話してもらっています。そして8月は、そこで得た学びと自らが持っている力を活かしてワークショップを開催。参加者から地域の人たちに還元することで、相互に学び合える環境をつくり出しています。

ここでの滞在を通して見えてくるのは「新しい働き方」。在校生かつ卒業生の進路の可能性を広げる、貴重な機会になると考えています。

イラストレーターとして この町に貢献できること

毎月、小国町教育委員会の活用事業を進める一方、個人でのイラストレーターとしての活動にも力を入れています。最近では、食べ物付き情報誌（東北食べる通信）に掲載するイラストや、書籍（やまがた百名山）のイラストなどを担当。また、小国町の農家さんが育てたお米のパッケージやなめこの缶詰のラベルなども手がけさせてもらっています。



豊かな自然の中で育まれた、山村暮らしならではの知恵と技を地域住民から学ぶ（小国短期留学）

定期的に行っている色鉛筆講座は初心者でも気軽に参加できる人気の企画。地域のお母さん方にとっても、絵を習うだけでなくお茶のみ話に花を咲かせられる大切な交流の機会



手を通して可視化できるようにすること。そういう仕事の仕方ができるようになったのは大学時代、洋画コースの先生方がいろんな言葉で私が描きたいものを引き出ししてくれたから。その時の経験がいま活かされていると実感しています。

人とつながる 地域とつながる

小国町に移住して気付いたことがあります。それは、人と人との関わり方が普通では考えられないほど濃いということ。ここは車で30分ほど行かないと満足に買い物するのが難しい環境なのですが、近所の人同士が互いに野菜を渡し合ったり、町まで買い物に行く人が他の人の欲しいものを一緒に買ってきてあげたりと、互いに無いものを補い合うような暮らし方をしているんです。その姿を見て、「お金だけじゃない経済」がここにあることを知りました。私はまだ移住して3年ですが、仕事を通して、そんな皆さんを縁の下で支えられる存在になれたらすごくうれしいです。芸工大での学びが教えてくれた、「絵を描く時はまわりのものを遮断するのではなく、自分から外に出ていろんなものにつながっていく



写真上）依頼内容に合わせて技法や画材を選ぶため、仕事ごとに絵のテストが変わるところも吉田さんの魅力



写真左）県に選定された100山を収録した書籍「やまがた百名山 発行：みちのく書房」のイラストを担当

く方が絵の可能性は広がる」という考え方が、それが仕事に向き合う際の私の核となっています。かつて大沼さんからここでの仕事を受け継いだ時のように、「studio こぐま」で活動したいと思ってくれる次の世代を育て、引き継いでいく。そして、そのサイクルがこの地域ですつと続いていくことが私の理想です。



（studio こぐま）1年目に共に活動した大沼さんと吉田さん



アーティスト活動では、立体とドローイング作品を組み合わせ空間を作るインスタレーションを展開



イラストレーターとしての仕事も順調に増えている吉田さん。その活動は山形にとどまらず、遠く島根からもワークショップの誘いが来るなど、活躍の場がどんどん広がっている